HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	寺田教授　挨拶、略歴・研究業績
著者	寺田，稔; TERADA，Minoru
引用	北海学園大学人文論集(54)：5-10
発行日	2013-03-30

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

寺田　　稔教授

退職にあたって

寺　田　　稔

大学を去る日が近づき，徐々に強まる思いは感謝と安堵の気持ちです。無事に退職を迎えることが出来るのも，教職員の皆さんや研究仲間からの多くの支援と激励を頂いたお蔭と思っています。心からお礼を申しあげます。

バブル経済が崩壊した平成３年に北海学園大の教養部に赴任し，日本経済の低迷，大学改革，受験者数の減少，高齢者の急速な増加など日本の経済や社会の大きな変化と共に歩んできました。私は，大学の組織改革の関係で教養部から法学部へ，さらに人文学部へ移籍し，人文学部で退職を迎えます。この間，教養部では専門分野が異なる先生方から多くの事を学び，法学部では活発な議論や意見交換のなかで刺激をうけ，さらに人文学部では和気あいあいとした雰囲気のなかで穏やかな日々を送ることができました。

基礎教育科目「地理学」では，地理学が地域とそこに暮らす人々との係りについての理解を深める科目であり，決して国名，地名，統計資料などを丸暗記する学問ではないことを理解させ，さらに複雑で多様な日本や世界の諸地域に少しでも関心を持ってもらえたらとの強い思いを持って講義をしてきました。私の思いがどの程度学生に浸透したかは定かではありませんが，日本や世界を知ることの面白さを少しでも感じてもらえたとするならば幸せです。

人文学部での講義は，殆どが少人数の授業であったために，学生と身近に接することができました。２部の「日本地誌」は，受講者が少なく年配の学生も多く受講していたために，受講者の熱心さに引き込まれ，毎週の講義が楽しみでした。「日本文化演習」の関西への研修旅行では，出来るだ

け多くの事象を見ることによって日本文化の理解を深め，日本の伝統文化に触れることによって日本人の心の理解に結び付けばとの思いで学生と一緒に楽しむことができました。奈良・京都での歴史的遺産の見学，宇治での茶の栽培，伊根町での漁村集落の散策，個人研修で学生と共に訪れた近江地域と信楽焼きの見学など楽しかった多くの思い出が次々と蘇ってきます。講義や研修旅行で学生と共に心から楽しめたことは，教師冥利に尽きる思いです。

北海学園大学に赴任した以降は，18 歳未満人口の減少を背景に，大学教育が大きく変化した時代でもありました。本学は，大学の大綱化をうけての教養部の改組，人文学部と経営学部の新設など，学内の組織を整備・拡充しながら発展の一途をたどって来ました。今後の大きな課題は，教育の内容を如何に充実して行くかだと思います。北海学園大学が，個性豊かで魅力のある大学へ発展することを切に望んでいます。

在職の 21 年間は，楽しく有意義な時間を過ごすことが出来たと同時に，深い感謝の思いで一杯です。私の好きな言葉に，「動機こそが高貴である。結果を恐れるな」という新渡戸稲造の言葉があります。日本は広く，私の知らない場所がまだまだ沢山あります。退職後は，自由人として積極的に新たな地域や場所を訪ね，今までの経験を活かしながら諸地域の発展に積極的に係ってゆきたいと考えています。

最後に，北海学園大学が北海道を代表する私学として，さらに大きく発展することを心から願っています。

略　　歴

寺田（てらだ）　稔（みのる）　1944 年 4 月 28 日生

学　　歴

1967 年 3 月　立正大学　文学部地理学科卒業
1969 年 3 月　立正大学大学院　文学研究科地理学専攻修士課程修了
1975 年 3 月　立正大学大学院　文学研究科地理学専攻博士課程修了
1975 年 3 月　文学博士（立正大学）

職　　歴

1975 年 4 月　立正大学文学部助手
1980 年 4 月　立正大学文学部非常勤講師
1982 年 4 月　立正大学教養部非常勤講師
1991 年 4 月　北海学園大学教養部教授
1993 年 4 月　札幌大学教養部非常勤講師
1995 年 8 月　北海道教育大学釧路校非常勤講師
1998 年 4 月　北海学園大学共通教育・研究部教授
2001 年 4 月　北海学園大学法学部教授
2004 年 10 月　北海道大学農学部非常勤講師
2006 年 4 月　北海学園大学人文学部教授

主な研究業績

［Ⅰ．著書］

1．地下水資源の開発と保全　共著　昭和 48 年 11 月　㈶水利科学研究所
2．日本の植木生産地域　共著　昭和 59 年 4 月　㈱古今書院

3．東京大都市圏の地域変貌　共著　平成元年10月　㈱大明堂
4．北海道開発の視点・論点　共著　平成10年11月　北海学園大学開発研究所
5．日本の地誌　共著　平成19年4月　㈱古今書院
6．地域の諸相　共著　平成22年3月　㈱古今書院
7．日本の地誌　第3巻　北海道　共著　平成23年11月　㈱朝倉書店

［Ⅱ．**論文**］

1．三浦半島荒崎海岸の波蝕棚にみられる洗濯板状起伏の形成について　共著　昭和45年4月　地理学評論　第43巻4号
2．神奈川県，平塚海岸における前浜の垂直変化について　単著　昭和47年3月　地理学評論　第45巻第3号
3．神奈川県平塚の海岸における砕波後の波の遡上について　単著　昭和51年8月　地理学評論　第49巻第8号
4．神奈川県平塚海岸における波浪と遡上波の統計的性質について　単著　昭和53年7月　立正大学文学部論叢　第61号
5．北埼玉地域の自然環境について（第1報）　共著　昭和54年3月　立正大学北埼玉地域研究センター年報　第2号
6．横須賀市なたぎり遺跡の地形と地質について　共著　昭和54年7月　立正大学文学部論叢　第64号
7．那須扇状地の地下水について　共著　昭和55年7月　立正大学文学部論叢　第67号
8．物部川左岸河口地域における地下水と養鰻業　共著　昭和55年9月　地域研究　第21巻第1号
9．北埼玉地域の自然環境について（第2報）　共著　昭和56年3月　立正大学北埼玉地域研究センター年報　第4号
10．千葉県東金市における植木生産について　共著　昭和57年3月　文部省科研費報告書
11．埼玉県江南台地の開析谷および泥炭層中の花粉および珪藻分析―立正大学熊谷校地の場合―　共著　昭和58年3月　立正大学北埼玉地域

研究センター年報　第6号

12. 神奈川県平塚海岸における砕波後の波の遡上について(その2)　単著　昭和60年3月　立正大学地理学教室創設60周年記念論文集

13. 石狩湾沿岸の自然の性格―石狩平野沿岸部の地形と土地利用―　単著　平成4年8月　北海道ウォーターフロント研究　第1号

14. 石狩湾ウォーターフロントの性格と利用　単著　平成5年6月　北海道ウォーターフロント研究　第2号

15. 札幌大都市圏の現状と地域開発　単著　平成8年1月　開発論集　第56号

16. 日本における花き栽培の現状と類型区分　単著　平成8年4月　北海道地理　No.70

17. 北海道における花き生産の発達過程と主要産地の性格　単著　平成10年3月　北海学園大学学園論集　第94・95号合併号

18. 北海道における農業地域区分の問題点と山間農業地域の地域特性　単著　平成11年11月　開発論集　第64号

19. 北海道の農業地域における生活環境と地域の活性化　単著　平成12年7月　北海学園大学学園論集第104号

20. 北海道における地域農業の変貌と問題点―環境保全型農業の現状を含んで―　単著　平成13年3月　開発論集　第67号

21. 北海道における農業集落の現状と特性について　単著　平成14年6月　北海学園大学学園論集　第112号

22. 北海道における農業集落の地域特性について　単著　平成15年6月　北海学園大学学園論集　第116号

23. 北海道十勝支庁における農業の現状と発展要因　単著　平成18年3月　開発論集　第77号

24. 北海道七飯町における花卉生産の現状と発展要因　単著　平成20年9月　開発論集　第82号

25. 北海道余市町における果樹栽培の現状と地域特性　単著　平成22年9月　開発論集　第86号

［Ⅲ．その他］

1．北海道における花き生産　単著　平成7年4月　地理情報　第2号

2．北海道の人口分布　単著　平成9年5月　地理情報　第3号

3．北海道の農業集落の現状と特性　単著　平成14年6月　地理情報　第7号

4．地理を学ぶ　平成18年8月　単著　人文フォーラム　25

5．地域の伝統文化が地域をつくる　単著　平成22年3月　北海学園大学経済論集　第57巻　第4号

6．地域の伝統文化が地域をつくる　単著　平成22年3月　人文フォーラム　32

7．北海道空知支庁における地域の伝統文化と地域づくり　単著　平成23年6月　地理情報　第16号